

令和2年 2月28日  
四国地方整備局  
土佐国道事務所

## 阿南安芸自動車道 野根<sup>のね</sup>～安倉<sup>あぐら</sup>における 直轄調査結果の送付について

この度、阿南安芸自動車道 野根<sup>のね</sup>～安倉<sup>あぐら</sup>における直轄調査結果がまとまり、高知県にその結果を送付したことをお知らせします。

◆資料：阿南安芸自動車道 野根<sup>のね</sup>～安倉<sup>あぐら</sup>に係る  
直轄調査結果（別紙）

土佐国道事務所ホームページ <http://www.skr.mlit.go.jp/tosakoku/>  
Twitter情報 [https://twitter.com/mlit\\_tosa/](https://twitter.com/mlit_tosa/)



本施策は、四国圏広域地方計画「No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災向上プロジェクト」の取り組みに該当します。

お問い合わせ先（○主な問い合わせ先）

四国地方整備局 土佐国道事務所 TEL：088-884-0359（代表）

副所長（改築） 多田<sup>ただ</sup> 貴幸<sup>たかゆき</sup>（内線204）

○調査課長 河野<sup>こうの</sup> 友佑<sup>ゆうすけ</sup>（内線451）

【技術的課題に対する道路設計・施工上の対応方針】

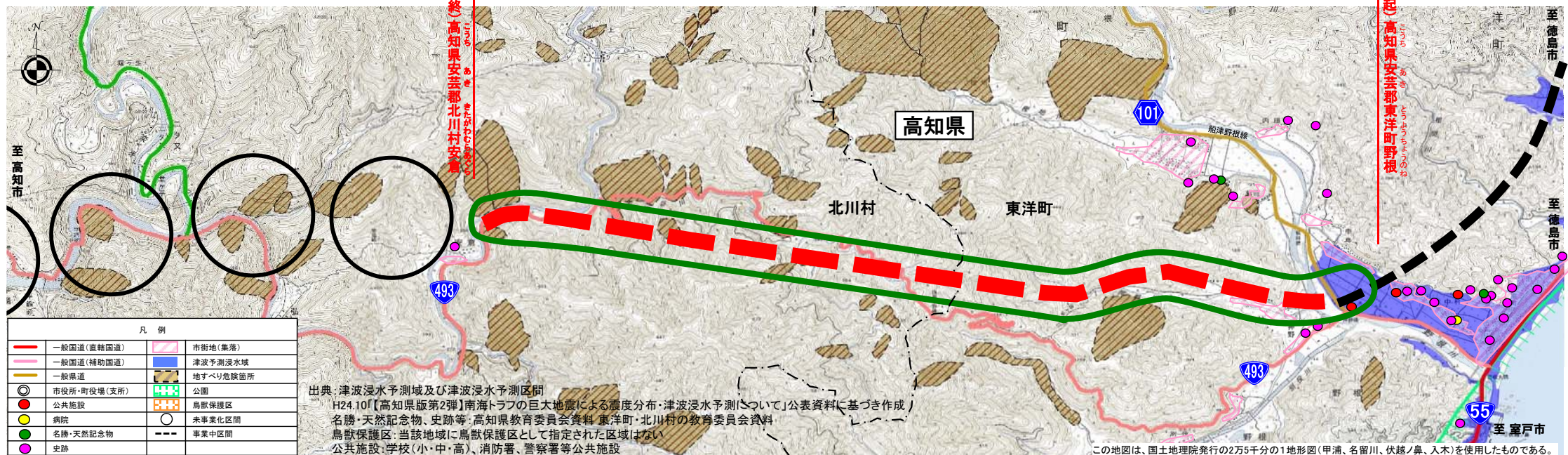
- 国道493号は、四万十帯に位置し地層は複雑に変形した付加体となっており、豪雨により災害が発生するなど脆弱な区間である。
- 特に、阿南安芸自動車道（野根～安倉）については、深層崩壊の要因となる可能性が高いと考えられる山頂緩斜面や岩盤クリープ斜面等の微地形が多い地域であり、地山深部まで緩み領域が分布する可能性が考えられる。
- 本区間には、地質的に複雑に変形した付加体で脆弱な区間に土被りの厚い長大トンネルが計画されており、トンネル掘削時に切羽の不安定化や変形の増大、支保工等に変状等が懸念されることから、観測・計測方法の実施や見直しに加えて、地山条件に応じた設計変更を速やかに反映しつつ事業を進める必要がある。
- また、地すべり地形や崩壊跡地、土石流等の発生跡地に長大切土や橋梁下部工が計画されており、切土の掘削時や橋梁下部工の床掘時に法面崩落や転石・落石の発生等が懸念されることから、各種調査の実施やその調査結果に加えて、施工中に得られた地質情報を速やかに反映しつつ事業を進める必要がある。
- 以上のことにより、本区間の事業を進めるためには、各段階で適切な判断が必要であり、高度な技術力を活用することにより事業実施が可能となる。

【平面図】

きたがわどうろ  
北川道路（1工区）調査中

あなんあきのねあぐら  
阿南安芸自動車道 野根～安倉 延長約9km

かいふのねどうろ  
海部野根道路 事業中

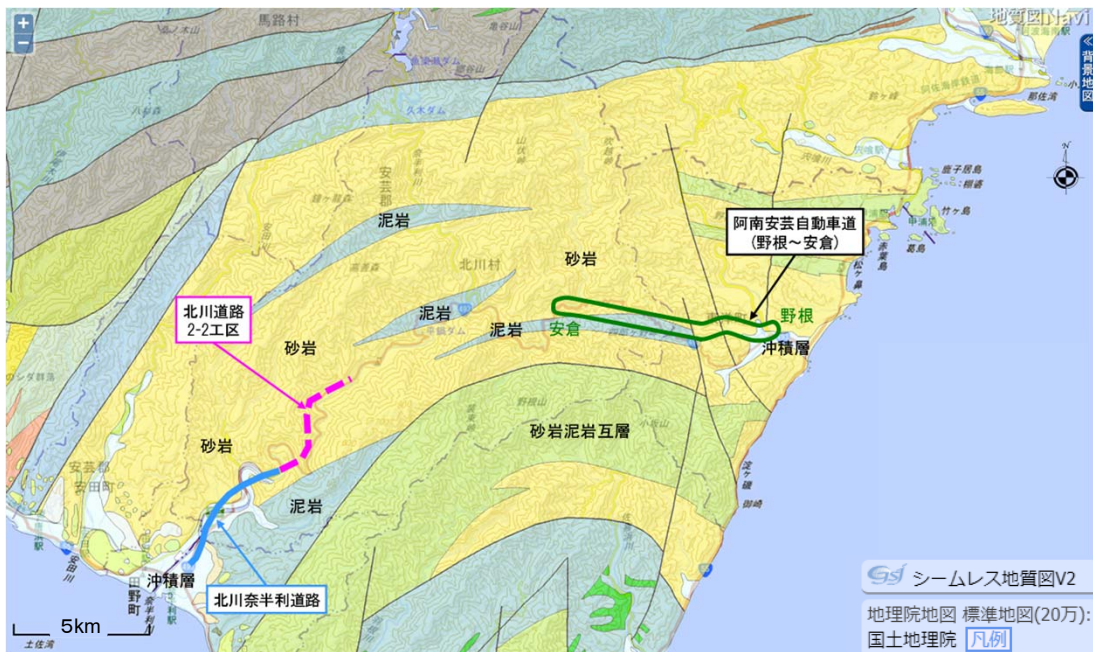




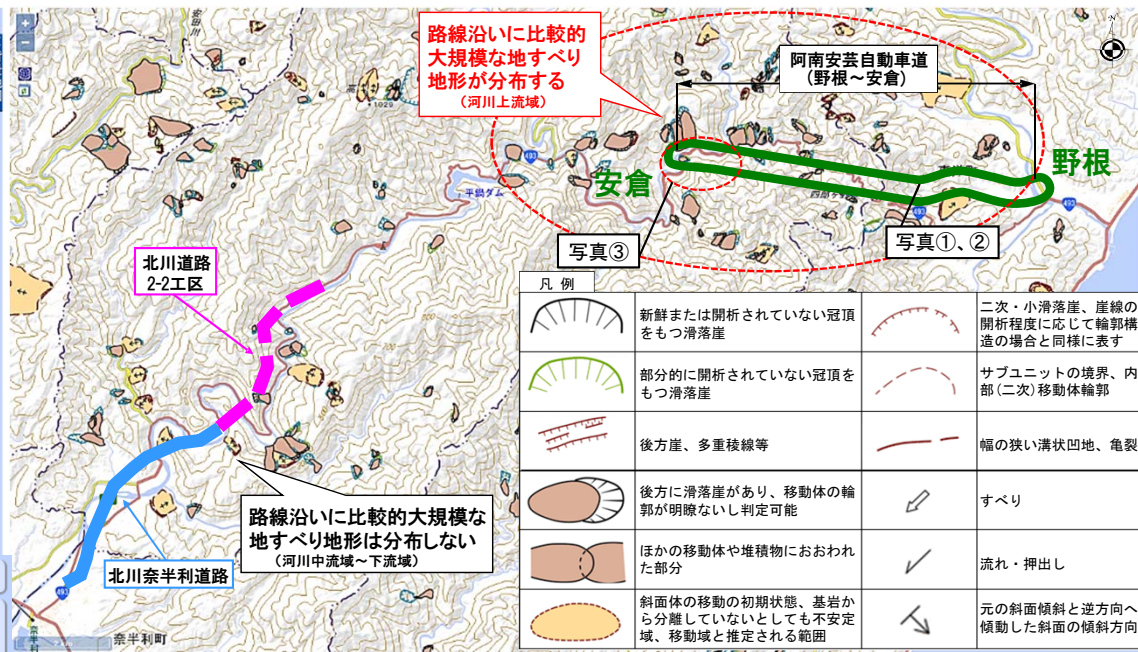
# 技術的課題に対する道路設計・施工上の対応方針（まとめ1/2）

- 国道493号は、四万十帯に位置し地層は複雑に変形した付加体となっており、豪雨により災害が発生するなど脆弱な区間である。
- 特に、阿南安芸自動車道（野根～安倉）については、深層崩壊の要因となる可能性が高いと考えられる山頂緩斜面や岩盤クリープ斜面等の微地形が多い地域であり、地山深部まで緩み領域が分布する可能性が考えられる。

《地質状況図》 出典：産業技術総合研究所 / 地質調査総合センター



《地すべり地形分布図》 出典：防災科学技術研究所



写真①：押野川上流域に分布する土石流堆積物



写真②：最大径約3mの巨礫を含む土石流堆積物



写真③：大規模地すべりの発生事例（安倉地区：H30.7）

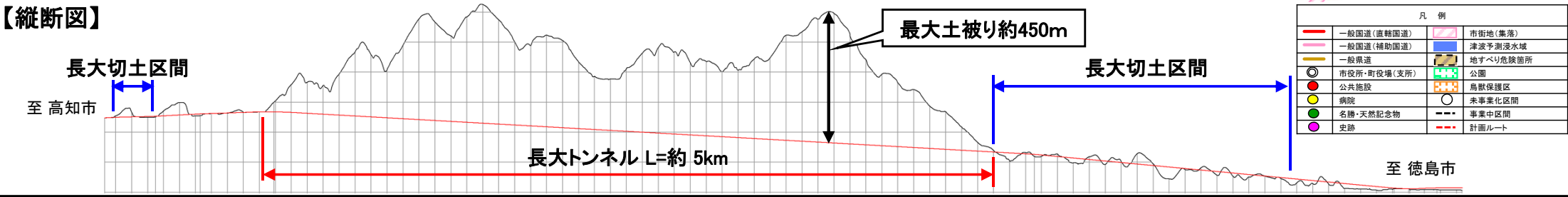
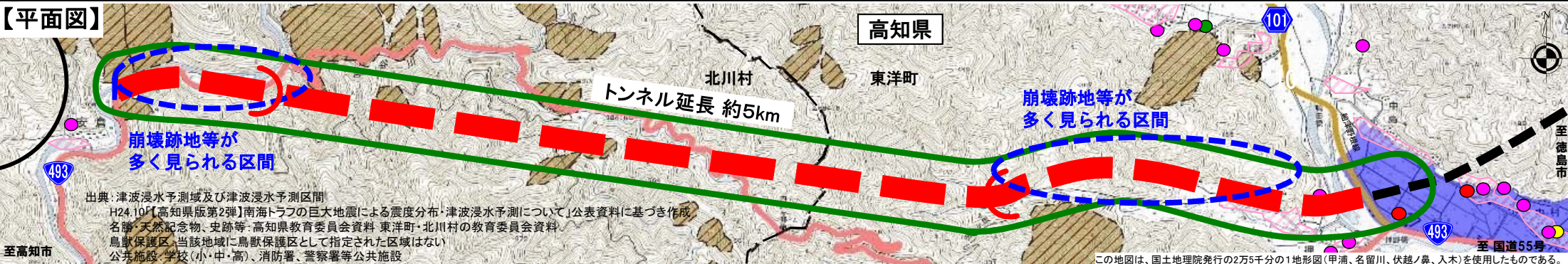


# 技術的課題に対する道路設計・施工上の対応方針（まとめ2/2）

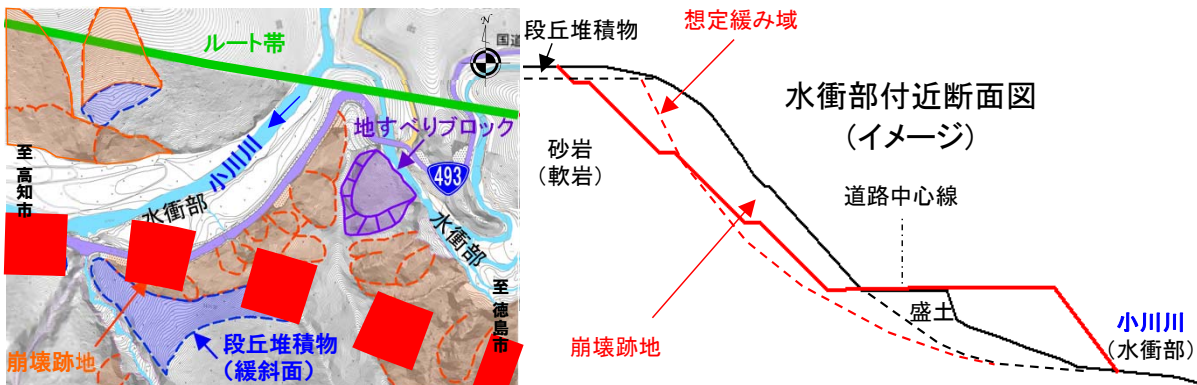
○本区間には、地質的に複雑に変形した付加体で脆弱な区間に土被りの厚い長大トンネルが計画されており、トンネル掘削時に切羽の不安定化や変形の増大、支保工等に変状等が懸念されることから、観測・計測方法の実施や見直しに加えて、地山条件に応じた設計変更を速やかに反映しつつ事業を進める必要がある。

○また、地すべり地形や崩壊跡地、土石流等の発生跡地に長大切土や橋梁下部工が計画されており、切土の掘削時や橋梁下部工の床掘時に法面崩落や転石・落石の発生等が懸念されることから、各種調査の実施やその調査結果に加えて、施工中に得られた地質情報を速やかに反映しつつ事業を進める必要がある。

○以上のことにより、本区間の事業を進めるためには、各段階で適切な判断が必要であり、高度な技術力を活用することにより事業実施が可能となる。



▼河川水衝部の崩壊跡地の切土（イメージ）



▼崩壊跡地の橋梁下部工と長大切土（イメージ）

